

令和6年度酪農教育ファーム活動報告

令和 7年 3月 31日
一般社団法人 中央酪農会議
酪農教育ファーム推進委員会

I. 令和6年度事業の考え方

1. 酪農などを巡る情勢と中酪事業計画の基本的な考え方

(1) 世界経済は令和5年度から6年度前半まで、金融引き締めや貿易の低迷などから成長率は小幅にとどまる傾向が予測されている。国内については、令和5年度はコロナ禍後の経済活動の正常化とインバウンド需要の回復が期待されたが、物価高の影響で減速した。令和6年度は海外景気の減速による輸出関係の悪化が懸念されている。

(2) 農業政策の動向については、食料の安定供給の確保や農業の持続的な発展などを盛り込んだ食料・農業・農村基本法の改正案が令和6年通常国会に提出、審議され、6月5日に公布、施行された。また、物流の2024年問題に対応するため、農水省は経済産業省、国土交通省とともに「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」を制定。本会も集送乳に関する自主行動計画を策定、公表した。

(3) 酪農政策関係では、飼料をはじめとした生産資材価格の高止まりが続く中、生産コスト増加分の小売価格への転嫁について、国民の理解醸成を図るため、農水省は昨年4月に畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議を立ち上げ、10月からは飲用牛乳など品目別のワーキンググループを設置して議論を進めている。また、同省は昨年7月にアニマルウェルフェアに関する飼養管理指針を策定し生産現場への周知を図るとともに、令和6年度には現行の酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針の見直しに向け、現在、畜産部会で議論している。

(4) 酪農経営をめぐる情勢については、飼料など生産資材の高騰を踏まえ、指定生乳生産者団体を中心に令和4年度から複数回の乳価引き上げを実現してきた。しかし、酪農家からは、乳価の引き上げ水準が経営を賄うことができないなどの意見が出ており、全国の離農率は高い水準で推移しており、令和6年10月には指定団体に生乳を出荷する全国の酪農家戸数は1万戸を割り込んだ。

生乳の需給動向は、令和5年度は生産抑制や猛暑の影響などで予測を下回る減少となった。令和6年度については前年水準に戻るものの、後継牛不足から先行きを懸念する見方も出ている。消費面では乳価値上げの影響で牛乳の消費が低迷する中、乳製品向け処理量が増加。脱脂粉乳の需要は引き続き減少し在庫解消が課題となる一方、バターはインバウンドなど業務用需要が好調に推移している。

(5) こうしたことを踏まえ、本会議においては、酪農家が『誇り』『やりがい』『夢』を持てる酪農産業を確立できるよう、令和6年度は酪農経営や生乳需給の状況、農水省の各種制度の検討動向等を注視しつつ、①生乳需給安定化対策②指定団体の組織機能強化・流通対策③酪農・国産牛乳乳製品への理解醸成活動を重点事項として事業を実施する方針。

2. 酪農教育ファーム活動を巡る課題等

(1) 家畜防疫に係るリスクの高まり

- ①他畜種における伝染性疾病の発生・まん延。
- ②海外からの入国者も含め、新型コロナによる人の移動制限等が緩和。
- ③酪農教育ファーム活動については、コロナ禍により活動数が大きく減少したが徐々に再開されつつあり、今後さらに活発化することが想定される。
- ④こうしたことから、家畜防疫に係るリスクが高まっており、飼養衛生管理基準の順守及び感染症防疫マニュアルに則った取り組みの徹底が、一層重要となっている。

(2) 認証数の減少（認証失効者の増加）

- ①特にコロナ禍以降、酪農教育ファーム認証牧場及びファシリテーターが大きく減少している（下記参照）。新規認証者数は毎年大きく変わっていないが、ファシリテーター認証を更新しない者（取消申請者、失効者）が増加していることが要因。（認証牧場には、必ず1人以上ファシリテーターが存在する必要があるため、ファシリテーター不在により牧場の認証も失効する）

〈参考〉

- 認証牧場：令和2年度末 287 牧場→令和5年度末 235 牧場（52 牧場減）
- ファシリテーター：令和2年度末 600 人→令和5年度末 484 人（116 人減）

- ②酪農教育ファームファシリテーターが認証を更新する方法はスキルアップ研修会の受講（認証期間の3年間で1回受講）が基本であるが、研修会を特段の理由で受講できない場合、指定行事による更新（認証期間の3年間で、指定団体等が主催する酪農教育ファームに関する行事に3回参加し、認証審査委員会に書類を提出して認められる）を認めている。これまでは、大半がスキルアップ研修会の受講により認証を更新している。

- ③スキルアップ研修会を受講しなかった（できなかった）主な理由は、業務上の問題（忙しい、ヘルパーが取れない、別用務と重なった等）、急な体調不良と推察されるが、そもそも認証制度や更新の要件を理解していない方も一定数いると考えられる。なお、コロナ禍以降、スキルアップ研修会の開催手法や日時、場所等の決定に時間を要し開催案内が遅れてしまった。令和6年度は開催案内を早めることで、一定程度の参加者の増加が

見込まれる可能性がある。

(3) スキルアップ研修会の参加状況

- ①コロナ禍で人の動きが制限されていた令和3年度から、ファシリテーターの認証を更新する「スキルアップ研修会」についてはWEBによる開催を追加した。コロナ禍が落ち着き始めた令和4年度からは、対面開催を復活し、WEB開催と併用する形式で実施している。
- ②コロナ禍前は対面開催しか選択肢がなかったが、交通費がかからず自宅などから参加できるWEB開催で、ファシリテーターの更新希望者の多くがWEB開催に参加。一方、対面開催を希望する声もあったため、令和5年度も対面開催を実施したが、東京以外では、参加者がひと桁の会場もある。

【参考】 スキルアップ研修会の参加状況

(R4年度)

WEB開催(2回) 60人：札幌11人、東京(2回) 17人、大阪9人、福岡8人

(R5年度)

WEB開催(2回) 56人：札幌9人、東京22人、大阪9人、福岡7人

(4) 活動実態調査の回収率の減少

- ①酪農教育ファーム活動は、その社会的な注目や評価もあり、実態データ(牧場への訪問者数や訪問団体の種類、出前型活動の実態など)の公表や分析が求められる状況にある。そのため、年に2回、認証牧場及びファシリテーターに対して「活動実態調査」を実施しているが、近年、回収率が大きく減少している。
- ②活動実態調査の重要性については、認証研修会で説明するとともに、調査依頼文書の中にも記載しているが、ファシリテーターや関係者に対して、より一層の周知が必要。併せて、回答がより容易になるような工夫の検討も課題となっている。

(5) 地域推進委員会における活動等の停滞

一部の地域において、地域推進委員会が開催されない、地域で行う酪農教育ファーム活動が実施されていない等の状況がある。

3. 課題等を踏まえた令和6年度酪農教育ファーム活動の考え方

- (1) 令和6年度は現行の認証制度及び推進体制の下、「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」を目的に、認証を受けたファシリテーターが学校等と連携しながら、牧場や学校等を舞台に行う教育活動「酪農教育ファーム活動」を推進する。
- (2) 酪農教育ファーム活動の推進を通じて、体験者自らの「食やしごと、いのちの学び」

を支援するとともに、酪農や生乳の特性・重要性、酪農における「持続可能な社会の実現」に資する取り組み、酪農経営の実態や生乳需給の状況等について、直接伝えることで、日本酪農への理解者・応援団の拡大等に繋げる。

(3) コロナ禍の終息に伴い、海外からの入国者も含めた人の移動が活発になる中で、諸外国の一部地域での家畜の伝染性疾病の発生及びまん延を踏まえ、酪農生産現場での取り組みにおいては、飼養衛生管理基準の順守及び感染症防疫マニュアルに則った取り組みを徹底する。

(4) 各会議や研修会においては、ファシリテーターや関係者等に対し、日本酪農・生乳需給を巡る情勢や、指定団体の重要性、中央酪農会議の取り組み内容、一般消費者の目線に立った「畜舎環境の整備」や「農場で飼養している動物の管理」、アニマルウェルフェアの重要性等について、情報共有・啓発を行う。また、認証制度の仕組みや、認証を受けて活動することの意義等について、改めて周知を行う。

(5) 本会議が主催する酪農教育ファーム関連会議・研修会等の開催手法については、対面開催、WEB開催のほか、対面とWEBを組み合わせたハイブリッド開催も含めて臨機応変に対応する。

(6) 地域推進委員会においては、酪農教育ファームファシリテーターや酪農関係者、教育関係者等による推進委員会を開催し、地域の実態や課題等を踏まえながら、現場での取り組みを推進する。

II. 令和6年度活動計画と進捗状況

1. 推進委員会等

(1) 全国の酪農教育ファーム推進委員会の開催

■第1回：令和6年4月25日（木）10：00～12：00（WEB会議）

（協議事項）

○令和5年度酪農教育ファーム活動報告

○令和6年度酪農教育ファーム活動計画

※今後、令和7年3月31日（月）14：00～16：00（WEB会議）に第2回を開催予定。

(2) 酪農教育ファーム専門委員会の開催

■第1回：令和6年9月3日（火）13：30～15：30（WEB会議）

（協議事項）

○委員長の互選について

○酪農教育ファーム専門委員会での検証作業の進め方などについて

■第2回：令和6年12月5日（木）13：30～15：30（WEB会議）

（協議事項）

○今後の酪農教育ファームファシリテーター認証制度の改善方向案などについて

※協議の結果、改善方向案を委員長に一任後、とりまとめ。今後、指定団体に報告の上、第2回酪農教育ファーム推進委員会で改善方向案を協議予定。

（3）指定団体担当者会議の開催

■日時：令和7年2月13日（木）10：00～12：00（WEB会議）

〈協議事項〉

○令和6年度酪農教育ファーム活動報告（検討メモ）

○令和7年度酪農教育ファーム活動計画（たたき台）

（4）地域推進委員会への支援・出席

■九州（5/12・福岡市）、東海（6/4・名古屋市）北海道（6/11・WEB、2/20・札幌市）、中国（6/14・岡山市）、東北（6/20・WEB）の推進委員会に本会議から出席。

2. 認証制度の適切な運用

（1）新規認証牧場・ファシリテーターの募集

■指定生乳生産者団体（地域推進委員会）を通じて募集。（11月末締め切り）

■指定団体による牧場現地審査の実施

（2）認証審査委員会の開催

■令和6年12月20日（金）13:30～15:30（WEB会議）

○委員名簿（敬称略）

氏名	所属・役職等
西田 敦子	全国退職女性校長会 顧問
安部 強	東北生乳販売農業協同組合連合会 代表理事専務
吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウス「ちちぶ路」（埼玉県）
山村 文之介	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査
寺田 繁	一般社団法人中央酪農会議 事務局長

■指定団体等別申請者数

管轄	牧場認証	ファシリテーター 認証	未受講理由書 による延長	指定行事による 更新
ホクレン	0	10	5	0
東北	0	6	4	1
関東	0	3	9	2
北陸	0	5	2	0
東海	0	4	3	0

近畿	0	2	3	0
中国	0	7	0	0
四国	0	0	0	0
九州	1	3	4	0
中酪	0	0	0	0
計	1	40	30	3

■ ファシリテーター認証申請者の属性

属性	人
酪農家（経営者）	2
酪農家（経営者の家族）	11
牧場従業員・社員	7
乳牛を飼養する教育的施設	3
乳牛を飼養する研究機関	3
乳牛を飼養する公共育成牧場	1
乳牛を飼養する観光牧場	1
教育関係者	1
団体職員	9
その他（新規就農予定者の家族、酪農ヘルパー）	2
計	40

■ 審査結果

① 1 牧場、40 人が仮認証を取得

（ただし、認証牧場 1 者は現地審査実施後、仮認証となる。その他は留意事項への対応及び認証研修会の受講により認証となる）

② スキルアップ研修会未受講理由書の提出者 30 人のうち、3 年連続の未受講理由書提出者 1 人を除く 29 人が認証期間（1 年）延長、指定行事による認証期間更新が 3 人。

（3）研修会の開催

① 認証研修会

■ **ねらい**：酪農教育ファーム活動の目的と意義、酪農教育ファーム認証制度の仕組み、酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策等を学ぶとともに、酪農教育ファームファシリテーターの役割を理解する。

■ **対象者**：酪農教育ファームファシリテーター候補者（認証審査委員会で仮認証を取得した者）

■開催日、講師（敬称略）、受講者人数等：

No	地域	開催日	講師：安全・衛生	講師：ワークショップ	受講者数
1	大阪市	2/4(火)～5(水)	日本大学 生物資源科学部 教授 堀北 哲也		13人
2	札幌市	3/5(水)～6(木)	よつ葉乳業株式会社 酪農部 係長 横井 允雄	日本大学 生物資源科学部 教授 堀北 哲也	9人
3	東京都	3/10(月)～11(火)	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之介	神奈川県 鎌倉保健福祉 事務所 三崎センター 生活衛生課 主査 赤間 倫子	13人
合計					35人

■プログラム

No.	開始	分	内容
【1日目】			
1	13:30	05	開会・事務連絡
2	13:35	10	主催者挨拶、最近の酪農を巡る情勢説明
3	13:45	15	酪農教育ファームの歩み（20周年DVD上映）
4	14:00	180	ワークショップ 酪農教育ファームファシリテーターの役割
5	17:00	10	事務連絡、1日目終了
【2日目】			
7	9:00	15	事務連絡等
8	9:15	90	講演「酪農教育ファーム活動における安全・衛生の基準」 ※質疑応答含む
9	10:45	10	休憩
10	10:55	15	認証の仕組み、規程、資材提供などの説明
11	11:10	25	参加者の感想等発表
12	11:35	05	事務連絡・アンケート記入・閉会

■アンケート結果

	2/5, 6 大阪	3/5, 6 札幌	3/10, 11 東京
アンケート回収数	13	9	12
①今回の研修会は満足できたか	4.9	5.0	4.9

②酪農教育ファームの仕組みは理解できたか	4.8	4.7	4.8
③ワークショップを通じて酪農教育ファームファシリテーターの役割が理解できたか	5.0	4.7	4.7
④酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫の基準は理解できたか	4.9	4.8	4.8
⑤今後も研修会に参加したいと思うか	4.8	4.8	4.8

○自由記述（概要・抜粋）

①酪農教育ファームの仕組みは理解できたか

■DVDを視聴して、酪農教育ファームの制度は世界的に見て珍しい制度であることが分かった。（大阪）

■さまざまな取り組みをして食やいのちについて伝えているのがすごいと思った。（札幌）

■酪農家が主体となり、いのちの大切さや酪農の意義を広める活動であることが理解できた。（東京）

②ワークショップを通じて酪農教育ファームファシリテーターの役割が理解できたか

■“教える”ではなく“引き出す”ことの大切さを理解できた。（大阪）

■ファシリテーターの役割は「引き出す」ことに驚いた。教えず、相手に考えさせるために問うというのが役割であることを知り、とても面白い仕事だと感じた。（札幌）

■私たちが教えるのではなく、導くということが大切だと思った。（東京）

③酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫の基準は理解できたか

■牛舎に外部から人を入れることに関して、事前の準備、説明が必要なことを改めて感じた。（大阪）

■防疫の重要性とともに、自分たちの牧場では何が出来ていないのかを見つけることができた。（札幌）

■とても分かりやすく、事例なども紹介しながら講演してもらったので、頭に入ってきやすかった。（東京）

④その他

■他の認証牧場の活動を見学し、実際に体験したいと思った。（大阪）

■交流、場作りの大切さを改めて再確認できた。教える事はない。相手から引き出してほしいと思った。（札幌）

■酪農家だけでなく、農業高校や畜産協会など、さまざまな人たちとワークショップで意見を交わすことで、いろいろな視点に触れることができた、とても貴重な時間となった。（東京）

②スキルアップ研修会

<開催概要>

■目的：

- ①酪農教育ファーム活動の基本である「安全・衛生・防疫対策」について再確認する。
- ②ワークショップを通じて、ファシリテーションスキルを向上させる。
- ③経験年数や年齢、地域や活動内容等が異なる参加者同士の情報交換等を通じて、自らの酪農教育ファーム活動を客観的に振り返り、これまでの成果と課題、課題解決の方法等に気づく。
- ④研修会を通して気づいたことを自分の酪農体験プログラムに反映させ、活動の目的である「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」ことに近づけていく。
- ⑤最近の酪農を巡る情勢について、情報と問題意識の共有を図る。

■対象者：酪農教育ファームファシリテーター

■開催日・講師・受講者人数等

No.	地域等	開催日	会場等	安全・衛生	ワークショップ	受講人数
1	WEB①	7/22 月	ZOOMを使用	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之介	日本大学 生物資源科学部 教授 堀北 哲也	29
2	WEB②	8/23 金	ZOOMを使用	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之介	日本大学 生物資源科学部 教授 堀北 哲也	21
3	東京①	9/20 金	ビジョンセンター 浜松町	日本大学生物資源科学部 教授 堀北 哲也	神奈川県鎌倉保健福祉事務所 三崎センター生活衛生課 主査 赤間 倫子	11
4	WEB③	10/25 金	ZOOMを使用	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之介	神奈川県鎌倉保健福祉事務所 三崎センター生活衛生課 主査 赤間 倫子	34
5	大阪	10/28 月	貸会議室 「ユーズ・ツウ」	日本大学生物資源科学部 教授 堀北 哲也	日本大学生物資源科学部 教授 堀北 哲也	12
6	札幌	11/14 木	北農ビル 第5会議室	日本大学生物資源科学部 教授 堀北 哲也	よつ葉乳業株式会社 酪農部 係長 横井 允雄	14
7	東京②	11/18 月	エッサム神田ホール 1号館	神奈川県鎌倉保健福祉事務所 三崎センター生活衛生課 主査 赤間 倫子	日本大学生物資源科学部 教授 堀北 哲也	11
合計						132

今年度は、参加者が多いWEB形式を3回設定するとともに、対面形式も計4回開催。開催時期も7月から11月と例年に比べて長期間にわたり実施することで、できるだけ多くのファシリテーターに参加してもらえるように計画した。

また、酪農家の研修会参加の負担を少しでも減らすため、開催形式によって3つのプログラムを設定。特に、近年参加者が多いWEB形式については、開始時間を早めて夕方の搾乳作業などに影響が出ないように2種類のタイムスケジュールを設定した。

(1) 現地対面開催（札幌、東京2回、大阪）

No.	開始	分	内容
	11:45		受付開始
1	12:00	10	開会・事務連絡、主催者挨拶
2	12:10	60	講演「酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策」
3	13:10	180	ワークショップ ※参加者の主体性を重視した体験型の研修（参加者同士の話し合い等を含む）を通じてファシリテーションスキルの向上を図る内容を予定。
4	16:10		閉会

(2) WEB①（7月22日）のスケジュール

No.	開始	分	内 容
	11:15		受付開始
1	11:30	10	開会・事務連絡、主催者挨拶
2	11:40	60	講演「酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策」
3	12:40	180	ワークショップ ※参加者の主体性を重視した体験型の研修（参加者同士の話し合い等を含む）を通じてファシリテーションスキルの向上を図る内容を予定。
4	15:40		閉会

(3) WEB②（8月23日）、WEB③（10月25日）のスケジュール

No.	開始	分	内 容
	10:45		受付開始
1	11:00	10	開会・事務連絡、主催者挨拶
2	11:10	60	講演「酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策」
3	12:10	180	ワークショップ ※参加者の主体性を重視した体験型の研修（参加者同士の話し合い等を含む）を通じてファシリテーションスキルの向上を図る内容を予定。
4	15:10		閉会

■アンケート結果（5段階評価）

	7/22 WEB①	8/23 WEB②	9/20 東京①	10/25 WEB③	10/28 大阪	11/14 札幌	11/18 東京②
アンケート回収数	29	21	11	30	12	14	11
①今回の研修会は満足できたか	4.2	4.7	4.7	4.5	5.0	4.8	4.9
②安全・衛生・防疫対策は理解できたか	4.7 山村	4.7 山村	4.8 堀北	4.9 山村	5.0 堀北	4.7 堀北	4.9 赤間
③ワークショップで気づきはあったか	4.4 堀北	4.6 堀北	4.7 赤間	4.6 赤間	4.7 堀北	4.7 横井	4.9 堀北
④今日学んだことを自分の活動に反映できそうか	4.3	4.5	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
⑤他の受講者とコミュニケーションはとれたか	3.7	4.4	4.8	4.3	4.7	4.5	4.8

○自由記述（概要・抜粋）

<p>①安全・衛生・防疫対策などについて</p> <p>■アニマルウェルフェアに対して施設でも再確認し、改善しなくてはいけないと思った。(WEB③)</p> <p>■改めて衛生対策の重要性を知ることができた。(東京②)</p>
<p>②ワークショップについて</p> <p>■酪農“教育”ファームであって、酪農“体験”ファームではないとの堀北先生の言葉が印象に残った。(WEB①)</p> <p>■ファシリテーターの役割の再認識のコツである「教えられる」と「引き出される」の違いがよくわかった。(東京①)</p> <p>■ファシリテーターは気付きを与える役割だということを再確認できた。(札幌)</p>
<p>③他の受講者とのコミュニケーションについて</p> <p>■オンライン開催だったので、他の方とのコミュニケーションが対面に比べると取りづらいつと感じた。(WEB①)</p> <p>■酪農家の方々と、いろいろな意見交換ができて有意義な時間を過ごせた。(大阪)</p>
<p>④全体を通しての感想や今後取り上げてほしいテーマについて</p> <p>■酪農“教育”ファームとして、今後は体験をメインではなく教育を意識して活動したいと感じた。一方的に教えるのではなく、オープンクエッションを意識して、参加者から引き出すことの重要性を感じた。(WEB①)</p> <p>■対面スキルアップは、場の雰囲気も楽しく、また開催してほしい。(大阪)</p> <p>■WEBでの参加だったので交流はあまりできなかった。講習後に参加希望者でWEB交流会のようなもの（途中参加、途中退室自由）はできないのだろうか。(WEB③)</p> <p>■今回のようなファシリテーションスキルを再確認するような研修会を受けたい。(東京②)</p>

(4) 年度末認証数 (見込み)

① 認証牧場数 (見込み)

	R5 年度末 (R6 当初) ①	増加 ②	減少			R6 年度末 (R7 当初) ①+②-③	前年差
			③=a+b	取消 申請 a	失効 b		
ホクレン	45	0	2	2	0	43	-2
東北	21	0	4	2	2	17	-4
関東	65	0	2	0	2	63	-2
北陸	12	0	0	0	0	12	0
東海	24	0	3	0	3	21	-3
近畿	14	1	0	0	0	15	1
中国	20	0	0	0	0	20	0
四国	5	0	0	0	0	5	0
九州	29	0	6	4	2	23	-6
沖縄	0	0	0	0	0	0	0
計	235	1	17	8	9	219	-16

② ファシリテーター数 (見込み)

	R5 年度末 (R6 当初) ①	増加 ②	減少			管轄変更 ④	R6 年度末 (R7 当初) ①+②-③	うち、理由書 による 1年延長	前年差
			③ =a+b	取消 申請 a	失効 B				
ホクレン	89	8	7	3	4	0	90	4	1
東北	40	5	4	2	2	0	41	4	1
関東	135	4	12	0	12	0	127	9	-8
北陸	24	3	3	0	3	0	24	2	0
東海	46	2	7	0	7	0	41	3	-5
近畿	54	3	2	0	2	0	55	3	1
中国	34	7	1	0	1	0	40	0	6
四国	8	0	1	0	1	0	7	0	-1
九州	54	3	8	4	4	0	49	4	-5
中酪	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	484	35	45	9	36	0	474	29	-10

※増加の人数は認証研修会受講者数

(5) 活動実態調査の実施

- 上期分（4～9月分）は別紙①参照。今回から回答しやすい方法として、「グーグルフォームによる調査方式を導入」。「感動通信」と統合した酪農専門フリーマガジン「MILK CLUB」の酪農教育ファーム関連ページ「OPEN SESAME！牧場へ行こう」にQRコードを掲載、スマホなどから直接入力できる仕組みを取り入れたが、回答数が少ない状況で、今後さらに周知が必要。
- 下期分（10月～令和7年3月分）は令和7年4月に調査依頼文書を発出するとともに、グーグルフォームの方式を継続する予定。

(6) 認証牧場・ファシリテーターの管理

(7) 地域推進委員会による牧場現地検査・審査

- 地域推進委員会において、牧場現地検査（既認証牧場への3年に1回の検査）及び牧場現地審査（新規認証取得のための審査）を実施。

3. 実践者及び理解者の拡大・普及

(1) 地域推進委員会における認証取得への取り組み・PR

(2) 酪農家等関係者への普及

①業界紙（誌）への記事広告掲載

- 「全酪新報」9/20号（別紙②参照）
 - カラー1ページ・15段（記事10段、広告5段）
 - 新型コロナによる制約が解除される中、改めて「直接体験」による酪農教育ファーム活動の重要性や、厳しい酪農情勢における酪農教育ファーム活動の役割と価値等をテーマに、酪農家（広島県・小川香奈氏）へのインタビュー記事、酪農教育ファーム中国地域推進委員会の活動紹介、新規認証募集広告。
- 「DAIRYMAN」10月号（別紙③参照）
 - A4判カラー3ページ（記事2.5ページ、広告1/2ページ）
 - 認証牧場（愛知県・清水牧場）での活動の取材記事、新規認証募集広告。



②酪農家等関係者が集まる研修会・イベント等におけるPR

■各種研修会・イベント等で酪農教育ファーム紹介チラシの配布等を実施。

(3) 教育関係者への普及

①実践研究集会

<開催概要>

■令和6年10月27日(日) 13:00~16:00

■共催：日本酪農教育ファーム研究会

■対象：日本酪農教育ファーム研究会会員及びファシリテーター

■プログラム(敬称略)

開始時間	分	内容
13:00	05	開会・事務連絡
13:05	20	挨拶
13:25	45	■実践発表 ① 小学校・中学校・高校での酪農学習のプログラム(仮) 安達 永補ほか(北海道・☆Happy Land☆安達牧場) ② オンライン酪農体験 横山 弘美(東京) ③ 酪農すごろく 林 眞平(鹿児島)
14:10	10	休憩
14:20	50	■講演 「食品リサイクルによる持続可能な酪農～エコフィードの取り組み」 講師：有限会社環境テクシス 代表取締役 高橋 慶 吉田牧場 牧場のログハウス「ちちぶ路」 吉田 恭寛
15:10	35	グループ交流
15:45	15	まとめ、事務連絡
16:00		閉会

<開催結果>

■参加者：50人(ファシリテーター13人、研究会会員16人、その他教育関係者10人、指定団体等3人、報道3人、来賓・事務局5人)

■アンケート結果

質問項目	評価
今回の研修会に満足したか	4.7
安達牧場の実践発表は参考になったか	4.8
横山氏の実践発表は参考になったか	4.7
林氏の実践発表は参考になったか	4.7
高橋氏の講演は参考になったか	4.8
吉田氏の講演は参考になったか	4.8

グループ交流は参考になったか	4.6
今後もこのような研修会に参加したいか	4.7

<自由記述> (抜粋)

- (安達牧場の) 体験の中に夕飯づくりまで組み込まれていることにびっくりした。その過程で、体験者にどのような気づきがあったのか、どんな変化があったのかなど、もっとお話を聴ける機会があると良かった。(ファシリテーター)
- オンライン牧場が広まれば、近くに牧場のない学校でも牛や牛乳、酪農について学べると思った。(ファシリテーター)
- 九州の先生方の思いがしっかり詰まっていて、2次元コードによって、すごろくに広がりが出るところが素晴らしいと思った。(研究会会員)
- エコフィードという持続可能な社会に向けての取り組みを知り、教育的価値を感じた。(研究会会員)

4. 安全・衛生・防疫対策

- 認証研修会、スキルアップ研修会における講演の実施
- HP・フェイスブックを通じた情報及び資材 (手洗い大作戦、各種マニュアル等) の提供

5. 広報

(1) 酪農専門フリーマガジン「MILK CLUB」でのPR


令和6年度から、機関誌「感動通信」を休刊し、本会発行の酪農専門フリーマガジン「MILK CLUB」に統合。「MILK CLUB」では、「OPEN SESAME! 牧場へ行こう」のコーナー (3ページ) で、一般消費者にも酪農教育ファーム活動の輪を広げ、日本の酪農と牛乳・乳製品への理解醸成を図っている。

「MILK CLUB」: A4判・カラー24ページ

■ vol.141

○ 令和6年6月30日発行

○ 第1回目は「ようこそ、酪農教育ファームへ!」をテーマに、「食といのち、しごとの大切さ」を伝える酪農教育ファーム活動を紹介した。



■vol.142

○令和6年9月30日発行

○2回目は「子どもたちのはてな？から、牧場でのワクワクが生まれる！」をテーマに、小学校5年生が認証牧場訪問に向けた事前学習から事後学習までの流れを分かりやすく紹介した。



■vol.143

○令和6年12月15日発行

○3回目は「牧場を第二の教室に！酪農教育ファームに込めた思い」と題して、酪農教育ファーム推進委員会の國分重隆委員長のインタビューを掲載した。



■vol.144

○令和6年2月28日発行

○4回目は「子どもたちへつなぐ酪農の大切さ わくわくモーモースクール開催」と題して、関東生乳販連が東京・中央区立常盤小学校で開催したわくわくモーモースクールの模様を紹介した。



(2) ホームページ及び facebook ページによる情報発信

■ ホームページ (<https://www.dairy.co.jp/edf/>)

- 酪農教育ファームの概要、事例、調査報告、各種データ等の掲載
- 各種会議や研修会等の開催案内・プレスリリース、開催結果の掲載
- 活動支援ツール及び情報誌の紹介、関係者等からの申込受付

■ facebook (<https://www.facebook.com/rakunoukyouikufarm/>)

- 酪農教育ファームホームページと連動した内容
- その他酪農教育ファームに関する各種情報

6. 制作物

(1) 既存の教材等の増刷・配布

- 「酪農教育ファーム紹介チラシ」の更新、低学年用小冊子「だいはっけん」増刷

(2) 各種研修会用ツール及び新規認証者へのツールの制作

- 新規認証書・認証カードの制作・配布

7. 他団体との連携

(1) 地域交流牧場全国連絡会

- ① 各種会議における酪農教育ファーム事業の説明
- ② 各種会議・研修会の相互協力

(2) 日本酪農教育ファーム研究会

- ① 実践研究集会の共催(10/27)、② 定期総会への出席(6/16)、③ 例会の出席(6/16)、④ 役員会への出席(4/11・8/26)

(3) 全国農業協同組合連合会、全国酪農業協同組合連合会、(公社) 中央畜産会、(一社) Jミルク・乳の学術連合

必要に応じ情報交換等を実施。

(4) 農林水産省

「食育推進評価専門委員会」への委員派遣(千葉県・加茂牧場・加茂太郎氏)

以上